

第2期川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画 進捗状況 中間評価

方針1 新たな製品・サービスの「創出」

行動計画1 データプラットフォームの構築(データ活用による参入促進)				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>将来的な福祉課題について、データを読み取ることでその変化に気づき、実態に即した製品・サービス開発を進めることが必要となっています。具体的にどのような部分で産業の力が活かせるのか、共有しやすいサイズでの具体課題について、データを見える化し、共有することにより、多様な主体による対話を有意義なものにし、参入を促進する環境を構築します。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○福祉産業への企業の参入を促すため、福祉に関するデータをオープン化し、福祉課題の見える化を進めていきます。また、オープンデータを活用した、参入促進セミナーを実施することで、企業のビジネス化につなげていきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
1-①	行政データのオープンデータ化の推進	福祉側での課題や産業界の状況を示す各種実態調査等を二次加工可能な方式でホームページ上に掲載します。	○介護支援機器に関する意識調査や社会福祉統計データ等を二次加工可能な方式でホームページ上に掲載しました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>	b	<p>【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止</p>	○ホームページ上の情報については更なる充実を図り、福祉機器等の開発に資する情報を掲載し、オープンデータ化を推進します。
1-②	他機関調査や市民ニーズなどの福祉課題のデータの見える化	本市以外の他機関での調査結果や市民のニーズや生活実態などの収集により、福祉課題の共有しやすいサイズでのデータの見える化を進めていきます。	○ホームページ上に厚生労働省や、テクノエイド協会、製品評価技術基盤機構、他都市の取組とともに、福祉課題に関する情報を掲載しました。	3		b		○福祉に関する本市以外の他機関の調査結果などについても掲載し、福祉課題のデータの見える化を進めていきます。
1-③	データ活用による参入促進セミナーの実施	「データ」を収集して「情報」化し、その情報から行動変容を起こす「価値」を創造し、ビジネス化していくプロセスを作り出すセミナーを開催します。	○ビジネス化につなぐ参入促進のためのデータ活用セミナーを開催(令和2年2月5日開催)しました。	3		b		○ビジネス化につながる参入促進のためのデータ活用セミナーを毎年開催します。

行動計画2 アクションプラットフォームの構築(KIS理念に沿った共創型プロジェクト)				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>超高齢社会において、社会課題の解決に企業が参加していく流れが今後ますます強くなっていく中で、製品・サービス開発の過程で当事者目線を取り入れた、的確な課題設定のもとにプロジェクトを進める環境を構築していくことが必要となります。こうした背景から、将来的な福祉課題と企業力をマッチングしつつ、企業・市民・福祉事業者・NPO・大学・金融機関など、多様な主体との関係をコーディネートしながら課題解決に結びつけるプロジェクトを増やし、さらに新たなプロジェクトが創出する好循環をつくりだしていきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○企業・福祉事業者・大学・研究機関など様々な主体で構成されている「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」を活かし、福祉課題を解決するプロジェクトを創出していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
2-①	多様な主体の参加による「アイデア創出プログラム」の実施	多様な主体の参加により、客観的なデータやフィールドワーク調査結果での情報から、課題に対する視点や方向性を発見し、周辺領域を含めて観察を繰り返しながら視点を育成し、共有しやすいサイズでの具体的なプロジェクト化につなげていきます。	○約360の企業・福祉事業者・大学・研究機関など様々な主体で構成された「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」の参画企業等と連携し、福祉課題解決に結びつけるプロジェクトを実施しました。	3		a		○約360の企業・福祉事業者・大学・研究機関など様々な主体で構成された「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」のリソースを十分に活かし、福祉課題を解決する製品の開発につなげるプロジェクトを生み出していきます。
2-②	多様な主体の参加による「共創型プロジェクトチーム」づくり	多様な主体の参加により、「住まい」「移動」「健康寿命延伸」などのライフスタイルやワークスタイルをテーマにプロジェクト化で実現する「価値」を明確化します。この価値の実現に向け、かわさき基準(KIS)理念に沿って、仮設・検証・判断の循環によるブラッシュアップを繰り返し、年間10件以上の共創型プロジェクトを創出します。	○かわさき基準の理念に沿って、「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」の参画団体である企業等と、平成29年度13件、平成30年度13件、令和元年度15件の共創型プロジェクトを創出しました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	○「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」の参画企業等と、かわさき基準の理念に沿って、令和2年度17件、令和3年度19件以上の共創型プロジェクトを創出します。
2-③	福祉製品開発の拠点づくり	製品づくりにおけるアイデア創出、簡易プロトタイプングによるユーザビリティと検証ができる場を目指し、併設する地域リハビリテーションセンターや高齢者・障害者施設、研修センター機能との相乗効果を図るための具体的な連携を見据え、設備・機能連携等の準備・検討を行います。	○川崎市複合福祉センター「ふくふく」内に設置する「(仮称)ウェルフェアイノベーション連携推進センター」の基本的な機能について検討を行い、福祉製品の開発促進に繋がる具体的なスキームについて関係機関と協議・調整を行いました。	3		a		○福祉製品の開発拠点となるよう、「(仮称)ウェルフェアイノベーション連携推進センター」の具体的な機能を決定し、センターを令和3年8月に開設する予定です。また、開設後は、センターの機能を活用し、併設する施設と連携して製品開発支援の取組を進めていきます。

行動計画3 専門コーディネータ等によるKIS理念に沿ったプロジェクトへの支援				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>新たな製品・サービスの創出を支えるために、創出過程で生じる様々な課題を解消するための相談環境として、「リハビリテーション工学」、「マーケティング」、「企業間ネットワークの情報」、「実証フィールドの提供」など、専門コーディネータや関係機関との連携によるプロジェクト支援環境を整備します。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○KIS理念に沿った製品・サービスの創出に向けて、専門コーディネータを活用したプロジェクト支援を行っていきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
3-①	ウェルフェアイノベーションサポートデスクの開設	ウェルフェアイノベーションの取組に対するワンストップ窓口として、本市にサポートデスクとして相談機能を明確化し、必要に応じて企業・福祉事業者とのチーム作りをサポートするほか、関係機関や専門コーディネータの派遣を調整します。	○経済労働局イノベーション推進室を窓口とし、企業などからの相談対応を行い、製品・サービスの創出に向け、企業・福祉事業者とのチームづくりの支援を行うとともに、必要に応じて専門コーディネータの派遣を行いました。	3		b		○令和3年8月開設予定の(仮称)ウェルフェアイノベーション連携推進センターに、相談機能を設け、新たに製品・サービスを開発・改良する企業を支援します。
3-②	専門的な知見を持つコーディネータによる支援	製品に関する専門的知見を有するエンジニアや、マーケティング支援を行うコーディネータによる、KIS理念に沿った製品・サービスの創出に向けた支援を行います。	○KIS理念に沿った製品の創出に向け、例えば盲導犬一本棒ハーネスの製品化プロジェクトにおいて、盲導犬ハーネスの専門的知識を有するコーディネータを派遣するなど、支援を行いました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止</p>	○新たな製品・サービスの創出につなげるため、各分野に専門的知見を有するコーディネータを選任し、KIS理念に沿った製品・サービスの創出に向けた支援を行っていきます。
3-③	デザイン活用による製品・サービスの魅力向上支援	新規に創出する製品や既存のKIS認証製品等を含め、プロジェクト始動当初から工業デザイナー面からの魅力向上に向けた支援の検討を行い、プロジェクトを進めます。	○工業デザインの有識者を専門コーディネータとして、施設内の介護負担を軽減する温湿度センサーを開発する事業者に派遣し、製品創出につなげました。	3		a		○工業デザインの有識者を専門コーディネータとして派遣することにより、開発する製品の魅力向上につなげていきます。

行動計画4 KIS理念に沿ったプロジェクトへの開発費補助等の支援				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>福祉関連の製品は、一般的に個々の利用者の特性に合わせた量産化が難しい製品となることも多く、市場リスク・開発リスクが大きいため、新たな製品・サービスの創出を支えるために、開発費助成に関する情報の整備や具体的に経費の一部助成を行うことにより、プロジェクトを安定的に稼働させ取組を加速化します。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	○開発費助成に関する情報を整理し、一元的に掲載するとともに、新たな製品・サービスの創出を生み出すため、開発費の助成を行っていきます。
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の実績結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
4-①	福祉製品・サービス開発支援補助	福祉課題を具体的に解決し、KIS理念に沿った製品・サービスの研究開発に対して年間5件程度の補助を行います。	○平成29年度は、事業者から7件の申請に基づき、3件事業採択（1件は中止）し、平成30年度は、事業者から5件の申請に基づき、1件事業採択し、開発補助を行いました。 令和元年度は、事業者から2件の申請に基づき、2件事業採択し、開発補助を行いました。	4	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	b	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	○開発事業者からの申請に基づき、補助を行うことにより、製品・サービスの開発につなげていきます。 なお、開発事業者からの申請が年々減少していることから、開発補助事業の積極的な広報を行ってまいります。
4-②	福祉製品開発資金融資	KIS理念に沿った福祉製品等の開発及び改良を行う製造業等の方に対する融資を行います。	○本市の中小企業融資制度である小口零細対応小規模事業資金を活用し、事業者へ福祉製品開発のための融資を行いました。	3		b		○市内の中小企業が福祉製品を開発する際の支援として、本市の中小企業融資制度を積極的に広報していきます。
4-③	開発費助成メニューの総合的な情報提供	製品・サービスを開発する企業への経済的支援の情報を総合的に提供することを目的に、本市及び本市以外の制度を含めた情報提供の仕組みを整備します。	○補助事業については、同様の開発費補助を行っているNEDOの説明会に参加し、本市の補助事業について広報を行いました。	3		b		○開発補助事業について、年々申請件数が減少していることから、NEDOとの連携強化による魅力的な支援となるよう、協議・調整するとともに、他が主催する会議やイベント等に参加し、積極的に広報してまいります。

行動計画5 最新技術等のシーズの活用を見据えた国・NEDO・大学等との連携				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>これまでにはない最新技術の活用を視野に入れることによって、新たな製品・サービスを創出する際に目指す価値を実現する可能性が広がります。最新技術の活用を新たな製品・サービス創出の一つの視点として取り入れながら、各関係機関が持つ企業の情報を重ね合わせることで、新たな製品・サービスの創出を支援する土壌を構築していきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○国・NEDO・大学等との連携を強化し、新たな製品・サービスの創出に向けて、最新技術に関するセミナーやウェルフェアイノベーション推進事業のプロジェクト等を通じて企業を支援していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
5-①	ロボット、人工知能、ICT等の開発段階での活用	<p>ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術を活用したビジネス創出支援セミナーを実施します。セミナー参加企業の中で関心のある企業・福祉事業者等によるアイデア創出プログラムから共創型プロジェクトチームづくりへとつなげていきます。</p>	<p>○ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術を搭載した製品を活用による新たなサービス創出を目指し、作業療法士、美大生、企業、介護福祉関係者など48名の多様な主体が参画したワークショップを開催し、製品開発につなげるため、57のアイデアシートを作成しました（平成30年度）。</p> <p>○ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術によるデータ活用セミナーを実施しました（令和2年2月5日開催）。また、セミナーとともに、共創型プロジェクトにつなげるために、ワークショップも同日開催し、企業間、企業と福祉事業者等の連携も図りました。</p>	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	<p>○先端テクノロジーを活用したビジネス化につなげるセミナーを毎年開催していきます。</p> <p>また、セミナーのみで終わらせず、セミナー参加企業の中から、意欲のある企業・福祉事業者等による共創型プロジェクトチームづくりへとつなげていきます。</p>
5-②	製品・サービス開発に関する関係機関との連携強化	<p>国、NEDO、大学、川崎市産業振興財団、金融機関等との連携や、本市臨海部で進めるライノベーションとの連携により、各関係機関が持つ情報を共有し、シーズとニーズをつなぐ取組を着実に進めます。将来的な福祉課題に対応する市内での製品・サービス創出を支援する土壌を構築し、市場活性化の動きを作り出します。</p>	<p>○国、大学、NEDO、産業技術総合研究所、国立リハビリテーションセンター、川崎市産業振興財団等と連携し、製品・サービスの開発促進による産業振興の強化に向けた取組となるよう、協議・検討を進めました。</p>	3		a		<p>○国、大学、NEDO、産業技術総合研究所、川崎市産業振興財団等との連携を強化し、企業の福祉製品開発を一層促進する取組となるよう、協議・検討し、福祉産業の振興の強化を目指します。</p>

方針2 新たな製品・サービスの「活用」

行動計画6 かわさき基準(KIS)認証による良質な製品の普及推進				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>多種多様な製品が市場に流通する中で、これまで、本市独自に福祉製品のあり方を「かわさき基準」として位置付け、当事者によるモニター評価や有識者等の意見を取り入れて製品認証を行ってきました。この実績を継続し、当事者目線での活用により生み出される、新たなライフスタイル・ワークスタイルなどの具体的な新しい価値を、製品の認証と普及促進を通じて蓄積していきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○当事者によるモニター評価や有識者等の意見を踏まえ、良質の福祉製品の普及促進に向け、引き続き、「かわさき基準(KIS)」として認証していきます。また、「かわさき基準(KIS)」認証福祉製品を活用して、新たなライフスタイル・ワークスタイルの創出していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
6-①	かわさき基準認証事業	当事者視点による自立支援を中心概念とし、社会環境の変化等に対応しながら地域包括ケアやダイバーシティの推進に具体的に寄与するなど福祉課題に具体的に対応する製品の認証を実施します。	<p>○平成29年度は、30製品の応募があり、16製品をかわさき基準認証製品として認証し、2製品をかわさき基準プレミアム認証製品として認証しました。</p> <p>○平成30年度は、29製品の応募があり、13製品をかわさき基準認証製品として認証し、2製品をかわさき基準プレミアム認証製品として認証しました。</p> <p>○令和元年度は、49製品の応募があり、23製品をかわさき基準認証製品として認証し、2製品をかわさき基準プレミアム認証製品として認証しました。</p>	3		a		<p>○福祉課題の解決に向け、引き続き、かわさき基準の8つの理念に沿った福祉製品を認証していきます。</p>
6-②	かわさき基準認証製品による新たな価値等の蓄積	当事者モニター評価による認証行為の強みを活かし、多くの人が集まる場における製品の活用を通じて、「新たなライフスタイル・ワークスタイル」などの具体的な新しい価値を蓄積していきます。	○かわさき基準モニター評価を行い、「モノ」の活用から生活の質の向上が促進されるといった「コト」を生み出す製品を「かわさき基準プレミアム認証福祉製品」として認証する取組を創設し、平成29年度から令和元年度の3年間で計6製品を認証しました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	○引き続きかわさき基準モニター評価を行い、当事者モニター評価を重視した、かわさき基準認証福祉製品を活用して、外出支援や就労支援など「新たなライフスタイル・ワークスタイル」などの新しい価値を生み出していきます。
6-③	かわさき基準認証製品の市場拡大に向けた支援	製品の流動性を高めるため、高齢者や障害児・者福祉関係の制度対象になる可能性がある製品については適用を促し、契約制度でも支援の枠組みを継続します。各制度内容を一元的に案内できるよう情報提供の仕組みを整備します。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第4号に基づき、本市が随意契約できる製品として、かわさき基準(KIS)認証福祉製品を継続しました。○かわさき基準認証製品パンフレットで全製品を掲載しアピールするとともに、新たに、「介護保険適用製品」、「介護ロボット対象製品」については、介護保険制度が利用可能な製品であることが分かるよう、記載し、情報提供しました。	3		a		○かわさき基準認証福祉製品の市場拡大に向け、本市の契約制度を継続します。また、引き続き、かわさき基準のパンフレットを作成する際も、「介護保険適用製品」、「介護ロボット対象製品」については、介護保険制度が利用可能な製品であることが分かるよう、記載し、情報提供していきます。

行動計画7 在宅での製品・サービスの導入促進				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>在宅生活の場において、新たな製品やサービスを導入することによって、これまでできないと思われていたことができるようになることは、新たな在宅ケアモデルを構築し、人の生活全般を豊かにしていく上で大切なことです。製品やサービスに触れ活用していく機会を増やしていくことで生み出される新たな価値を蓄積していきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○(仮称) ウェルフェアイノベーション連携推進センターの開設を機に、生活支援機器モニター評価等支援事業の充実を図り、在宅ケアが必要な方の生活全般を豊かにするような、新たなケアモデルを示していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
7-①	生活支援機器モニター事業の実施	生活支援を行うロボットなどの製品の購入やリースを考えている方に、安心してロボットなどの製品を購入いただけるよう一定期間製品の利用を試していただく「生活支援機器モニター事業」を実施します。その結果生み出される新たな価値を発信し、さらなる新たな価値の創造の循環をつくりだします。	○高齢者向け製品であるK I Sプレミアム認証福祉製品「DFree Personal」を排尿障害のある児童4名に一定期間試していただくモニター事業を実施し、高齢者向けの製品が児童にも活用可能となる新たな価値を創出しました。	3		b		○(仮称) ウェルフェアイノベーション連携推進センターの開設を機に、生活支援機器モニター評価等支援事業の実施製品を増やすなど、本事業の充実を図ります。
7-②	生活支援を行う事業所と連携した新たな住宅ケアモデルの構築	高齢者や障害児・者の生活支援を行う事業所に対して、かわさき基準認証製品やウェルフェアイノベーションでのプロジェクトの情報提供を行い、新たな住宅ケアモデルの構築に向けた取組を進めます。	○「NPO法人 療育ねっとわーく川崎」にかわさき基準認証福祉製品(DFree Personal等)を情報提供し、連携して行動計画7-①の事業を実施し、新たな在宅ケアモデルの構築に向けた取組を進めました。 ○国立リハビリテーションセンターと共同研究契約を締結し、地域リハビリテーションセンターの作業療法士等が、3Dプリンタを活用して、障害者が自ら自宅で使える自助具などを製作する技術を習得できるプロジェクトを実施しました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	<p>○新たなケアモデルにつながるよう高齢者や障害児・者の生活支援を行う事業所に対して、本市の取組み内容について、積極的に情報提供を行っていきます。</p> <p>○川崎市複合福祉センター「ふくふく」や北部・中部リハビリテーションセンター等と連携し、自宅で使用できる自助具の作製について、(仮称) ウェルフェアイノベーション連携推進センターを活用して、継続した取組となるよう進めていきます。</p>

行動計画8 施設での製品・サービスの導入促進				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>施設支援の場において、新たな製品やサービスを導入することによって、ケア技術の向上を図るとともに介護者・介助者負担の軽減を図ることは、施設を利用する方々の生活の質の向上や、介護者・介助者の職場でのやりがいの向上にもつながっていきます。介護人材の確保等が課題となっている現状において、施設支援の中で製品やサービスに触れ活用していく機会を増やしていくことで、活用することで生み出される新たな価値を蓄積し、施設内での支援の充実につなげていきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○介護負担軽減や介護人材不足という課題解決に資するため、「かわさき基準(K I S)」認証福祉製品を市内介護施設にアピールするとともに、施設での製品導入に向けた介護支援機器導入セミナーを開催していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
8-①	施設向け福祉介護機器活用促進セミナーの実施	高齢者施設や障害児・者福祉施設向けに福祉介護機器の的確な選び方や使い方、最新情報を伝えるセミナーを開催します。	○福祉施設での製品導入を促進するため、福祉施設向けに介護支援機器導入セミナーを開催(平成29年度17名参加、平成30年度18名参加、令和元年度48名参加)しました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	○施設での製品導入を促進するため、引き続き、福祉施設向けに介護支援機器導入セミナーを開催します。
8-②	福祉施設等への出張キャラバン事業の実施	高齢者施設や障害児・者福祉施設、医療機関等に対して、かわさき基準認証製品やウェルフェアイノベーションでのプロジェクトにより創出された製品・サービスの情報提供を行い、介護者・介助者負担の軽減につながる新しい施設支援モデルの構築に向けた取組を進めます。その結果、生み出される新たな価値を発信し、さらなる新たな価値を創造していく好循環をつくりだします。	○福祉製品の出張PRを実施しました。また、令和元年度は、介護・福祉施設におけるイベントや、約1,600事業者が集まる「川崎市指定介護保険事業者等集団指導講習会」において、福祉製品の出張PRを行いました。 ○介護者・介助者負担の軽減につながる新しい施設支援モデルの構築に向けて、福祉製品の活用効果を施設職員の声としてインタビューし、「かわさき基準認証福祉製品」のパンフレットにその内容を掲載し、市内福祉施設に配布しました。	3		a		○福祉施設等に対して、かわさき基準認証製品等の出張PRを引き続き行っていきます。 1,000以上の事業者が参加する「川崎市指定介護保険事業者等集団指導講習会」等においても、積極的に出向き、福祉製品の情報発信を行います。
8-③	施設内支援機器モニター事業の実施	施設支援において利用を想定する新たな製品・サービスについて、一定期間利用を試していただく「施設内支援モニター事業」を実施します。	○生活支援機器モニター評価等支援事業について、平成29年度は7製品を10施設で、平成30年度は7製品を6施設で、令和元年度は5製品を8施設で実施しました。	3		a		○モニター評価等支援事業に参画する協力施設が平成29年度20施設から令和元年度34施設に増加しており、引き続き、介護・福祉施設のニーズの適切な把握と製品評価につなげてまいります。 また、(仮称)ウェルフェアイノベーション連携推進センターの開設を機に、本事業の充実を図ります。

行動計画9 KIS理念に沿った製品の導入・普及補助等の実施				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容		
新たな製品・サービスの導入・普及を図り、活用することにより生み出される新たな価値を蓄積し、類似場面での活用の拡大を図っていくために、導入や普及に関する取組に対して経費の一部助成を行います。				B	【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)	II	【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	○かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーション事業でのプロジェクトにおいて創出した製品の普及促進を図るため、施設等で導入する際の補助事業を引き続き実施していきます。	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容	
9-①	施設等への福祉製品導入促進補助事業	地域包括ケアやダイバーシティの推進に寄与する、かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーションでのプロジェクトにおいて創出した製品に対して、施設等で導入する際の補助を実施します。	○かわさき基準認証福祉製品等の導入補助を平成29年度14件、平成30年度9件、令和元年度7件実施しました。	3	【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	a	【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止	○かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーション事業でのプロジェクトにおいて創出した製品の普及促進を図るため、施設等で導入する際や、普及する際の補助を実施するとともに、より導入が促進する手法等を検討してまいります。	
9-②	製品開発企業等への福祉製品展示会等出展補助事業	かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーションでのプロジェクトにおいて創出した製品を開発・販売する企業等が出展する展示会への補助を実施し、導入支援を行うとともに、本市のウェルフェアイノベーション施策のアピールを行います。	○展示会への出展補助を平成29年度2件、平成30年度2件、令和元年度3件実施しました。	3		e		○令和3年度は展示会出展補助事業を廃止し、約1,800件の登録者がいるウェルフェアイノベーションフォーラムのメールマガジンでの広報などを活用して、福祉製品を周知してまいります。	
9-③	導入促進補助等支援メニューの総合的な情報提供	製品の購入や出展補助に関する情報を総合的に提供することを目的に、本市及び本市以外の制度を含めた情報提供の仕組みを整備します。	○福祉製品の導入補助や出展補助について、本市のホームページに掲載するとともに、「川崎市指定介護保険事業者等集団指導講習会」で広報したほか、ウェルフェアイノベーションフォーラムのメールマガジン（配信先：約1,800件、発信回数平成29年度：17件、平成30年度：16件、令和元年度16件）にて情報を提供しました。	3		a		○福祉製品の導入促進等に関する情報については、引き続きウェルフェアイノベーションフォーラムのメールマガジンで情報発信していくとともに、本市以外の制度につきましても本市のホームページに掲載するなど情報提供を行ってまいります。	

行動計画10 介護事業者への介護ロボットの重点的な導入コーディネート				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
2018(平成30)年度の介護報酬の改定に向けて、介護ロボットの活用を含めた制度改革に向けた議論が進められています。こうした背景のもと、国における「ロボット新戦略」の分野別事項の一つに位置付けられている介護・医療ロボットの中で、かわさき基準認証製品を中心に介護事業所の支援に効果的な介護ロボットの導入に向けたコーディネートを行います。				B	【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)	II	【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	○介護事業所において、介護の質を確保しながら労働生産性向上に資するよう、介護ロボットの導入を促進します。
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
10-①	介護ロボット導入セミナーの実施	介護事業者が介護ロボットを導入するにあたって、その意味を共有し、購入する際のポイントを知り、具体的に介護ロボットを体験できるセミナーを開催します。	○介護ロボット開発者・普及推進に携わる人材を講師として、介護ロボットを体験できるセミナーを開催しました(平成31年2月21日開催(参加者18名)、令和2年2月20日開催(参加者48名))。	3	【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	a	【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止	○介護ロボットの導入を促進するため、介護ロボットについて知識を深め、体験できるセミナー開催していきます。
10-②	介護事業所への介護ロボット導入コーディネート	2018(平成30)年度の介護報酬改定時に想定される介護ロボット導入に対する影響を見据え、介護事業所での支援の向上に繋がる機器を中心としたコーディネートを行い、介護者・介助者負担の軽減に向けたモデルの構築に向けた取組を進めます。	○介護事業所への徘徊探知機の導入をコーディネートしました(平成30年度)。また、かわさき基準認証事業者によるリフト講習会を実施し、導入を促進するコーディネートを行うことにより、施設への導入が決定しました(令和元年度)。	3		a		○介護ロボットについて、モニター評価支援事業等を通じて、導入促進を図ってまいります。

方針3 将来を先取りする新たな社会モデルの「創造・発信」

行動計画11 新たな「住まい」モデル構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
生活の基盤となる「住まい」の場において、様々な生活上の課題が生じたとしても、製品・サービスの活用によりハード面・ソフト面の両面からその課題を解消し、新たなライフスタイルを構築していく価値を広く社会に提案していきます。	B	【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)	II	【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	○様々な生活上の課題が生じたとしても、製品・サービスの活用によりハード面・ソフト面の両面からその課題を解消し、新たなライフスタイルを構築していく価値を広く社会に発信していきます。

計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
11-①	在宅ケアモデルの構築に向けた「新たな住まいモデル」の発信	「製品・サービスの活用による新たなライフスタイル構築」をテーマに、ハード・ソフトの両面から在宅生活を支える製品を集積し、未来の住空間を体感できる企画の展開や製品の実証を通してそのモデルを広く発信します。	○音のバリアフリーの実現に向けて、かわさき基準認証福祉製品「comuoon」を使った実証実験を市内介護施設や住宅展示場などで展開し、新聞に掲載されるなど、情報発信を行いました(平成29年度)。 ○かわさき基準認証福祉製品「Live Talk」とスマートグラスを組み合わせたプラネタリウムでの新たな鑑賞会実証実験を展開し、ニュースにて取り上げられるなど情報発信を行いました(平成29・30年度)。	3		a		○かわさき基準認証事業や、モニター評価等支援事業、ウェルフェアイノベーション推進事業におけるプロジェクト等を通して、新たな在宅ケアモデルの構築に向け、福祉製品の活用効果を情報発信していきます。
11-②	住まいの基盤整備の着実な推進	福祉のまちづくり条例等に基づくユニバーサルデザインの推進やバリアフリーに関する情報を発信します。高齢者向け住まいに関する総合相談窓口を運営し、介護保険制度による住宅改修、高齢者住宅改修費の助成・在宅重度障害者(児)やさしい住まい推進事業、障害児(者)日常生活用具給付等事業などの制度を推進することにより、住まいの基盤整備を着実に推進します。	○バリアフリー基本構想・推進構想の進捗管理とともに、武蔵小杉駅周辺地区のバリアフリー構想の改定(平成29年度)、川崎駅周辺地区のバリアフリーマップの改定(平成30年度)、武蔵小杉駅周辺地区及び新百合ヶ丘駅周辺地区のバリアフリーマップの改定(令和元年度)を行いました。 ○「福祉のまちづくり条例」に基づく事前協議等における指導・助言等を実施しました(平成29年度249件、平成30年度267件、令和元年度224件)。 ○高齢者・障害者団体等により構成される「バリアフリーまちづくり連絡調整会議」を開催しました。 ○「すまいの相談窓口」を川崎市住宅供給公社に設置し、高齢者・障害者等の住み替え等の相談対応を行いました。	3	【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	a	【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止	○本市に住むすべての人及び本市を訪れるすべての人が、安全、安心、快適に過ごすことができるよう、ユニバーサルデザイン都市の実現に向けて一層の取組みの推進を行います。 ○引き続き、「すまいの相談窓口」において、高齢者や障害のある方等、ご自身で住まい探しを行うことが難しい方やそのご家族・支援者等からのご相談に対し、民間賃貸住宅や施設等の住み替え先に関する情報や、介護・福祉等、必要な支援先との連携等を行い、住まい探し全般に関する困りごとへのサポートをしていきます。

行動計画12 円滑な「移動」環境構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>生活の基盤となる住まいの場と外出して活動する場とをつなぐ「移動」の場面において、様々な障壁が生じたとしても、製品・サービスの活用によりその障壁を解消し、移動したくなる気持ちを生み出し新たなライフスタイルを構築していく価値を広く社会に提案していきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>A. 順調に推移 (目標達成している)</p> <p>B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)</p> <p>C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)</p> <p>D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分</p> <p>I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する)</p> <p>II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある)</p> <p>III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい)</p> <p>IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○円滑な移動に向けて、心と行動のバリアフリーを解消するため、福祉製品・サービスを活用したプロジェクトを通じて、外出したくなるライフスタイルを対外的に示していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
12-①	円滑な移動環境構築に向けた移動支援製品・サービスの発信	かわさき基準認証製品や移動をサポートする最新製品・サービスを集積した未来の移動手段を体感できる企画を展開します。ユニバーサルデザインタクシーなど移動をサポートする製品・サービスの活用による観光資源の創出などかわさきパラムーブメント施策と連動して、アクティビティの活性化につながる取組を発信します。	○かわさき基準認証福祉製品の車椅子を活用して、障害者が健常者と混ざり合っ「かわさきパロウィンパレード」に参加するなど、かわさきパラムーブメント施策とも連動して、アクティビティの活性化につながる取組を行い、対外的に広くアピールしました。	3		a		○かわさき基準認証製品や移動をサポートする最新製品・サービスを活用し、未来の移動手段を体感できるような取組を進めていきます。また、かわさきパラムーブメント施策と連動して、アクティビティの活性化につながる取組を行い、その効果を発信していきます。
12-②	移動環境の基盤整備の着実な推進	ユニバーサルデザインタクシーやノンステップバスの導入の推進を着実に進めます。駅周辺地区のバリアフリー化の際に、かわさき基準認証製品の活用の検討を含めて、着実に進めます。高齢者や障害者の移動支援にかかる事業を着実に進めます。	○タクシー事業者等に対する補助金の交付により、ユニバーサルデザインタクシーの導入を促進するとともに、駅前広場や病院等におけるユニバーサルデザインタクシーに対応した乗場の整備に係る協議・調整を行いました(令和元年度末の導入率実績:12.1%)。 ○民間バス事業者のノンステップバスの導入率は80%を超え、市バスのバリアフリー対応車両は100%を達成しました。 ○ユニバーサルデザインタクシーとかわさき基準認証製品(電動車椅子)を組み合わせた取組など、高齢者や障害者の移動支援をテーマにした動画を作成し、新たなライフスタイルを広くPRしました。	3	<p>【進捗状況】の選択区分</p> <p>1. 目標を大きく上回って達成</p> <p>2. 目標を上回って達成</p> <p>3. ほぼ目標どおり</p> <p>4. 目標を下回った</p> <p>5. 目標を大きく下回った</p>	b	<p>【取組】の選択区分</p> <p>a. 現状のまま継続</p> <p>b. 改善しながら継続</p> <p>c. 取組規模拡大</p> <p>d. 取組規模縮小</p> <p>e. 取組廃止</p>	<p>○ユニバーサルデザインタクシーについて、令和元年度に本市の導入目標(10%)を達成しましたが、国における導入目標の引き上げなどを踏まえ、引き続き、導入促進に取り組んでいきます。</p> <p>○ノンステップバスについて、引き続き、導入促進に取り組んでいきます。</p> <p>○駅周辺のバリアフリー化の際には、かわさき基準認証福祉製品の活用の検討を行っていきます。</p>

行動計画13 「健康寿命延伸」に向けた製品・サービス活用による価値の発信				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
平均寿命の延伸とともに、健康寿命の延伸が課題となっている中で、民間企業が主体となって、健康寿命延伸に向けたヘルスケア産業の取組が活発になっています。今後、ヘルスケア産業がますます拡大していくと見込まれる中で、健康な生活の継続に向けて有効な製品・サービスの情報を集積し、その効果を発信していきます。				B	【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 （目標達成している） B. 一定の進捗がある （目標達成に向けて進捗している） C. 進捗は遅れている （目標達成が遅れる可能性がある） D. 目標は大幅に遅れている （目標達成が厳しい可能性がある）	II	【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である （現状のまま維持する） II. 概ね効果的な取組構成である （一部見直し等の余地がある） III. あまり効果的な取組構成ではない （見直し等の余地が大きい） IV. 取組構成に問題がある （抜本的な見直し等が必要である）	○健康寿命延伸に向けたヘルスケア産業の情報を更に集積し、ホームページ等にも掲載するなど、情報を発信していきます。
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
13-①	健康寿命延伸に向けたヘルスケア産業の情報の集積	健康寿命延伸に向けた、様々な民間企業等のヘルスケア産業の取組の情報を集積します。	○経済産業省が所管する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」及び「健康寿命延伸産業創出推進事業」に参画し、健康寿命延伸に向けた、様々な民間企業等のヘルスケア産業を収集するとともに、ヘルスケアサービスガイドラインに関する検討会の委員として参加し、「ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を策定しました。	3		a		○経済産業省が所管する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」に引き続き参加するとともに、民間企業等が主催するフォーラムやセミナーなどに積極的に参加し、健康寿命延伸に向けた、様々な民間企業等のヘルスケア産業の取組の情報を集積します。
13-②	精神的・社会的な健康状態につながるヘルスケア産業の情報の集積	精神疾患のある方やひきこもり状態にある方などへ、健康な状態につながる民間企業等のヘルスケア産業の取組の情報を集積します。	○総務省所管の「障害者のICTを活用した社会参加」や「デジタル活用共生社会実現会議」など、精神疾患のある方等の雇用促進に関するものや、「次世代ヘルスケア産業協議会」の情報をホームページに掲載しました。	4	【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	b	【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止	○民間企業のヘルスケア産業の取組情報を収集するとともに、国の最新情報も収集し、ホームページにデータを集積させ、発信します。
13-③	ヘルスケア産業の健康寿命延伸に向けた効果の発信	健康寿命延伸につながる、様々な民間企業主体のヘルスケア産業の効果を、ライフスタイルに応じた様々なテーマを設けながら市民向けに発信します。	○ウェルフェアイノベーションフォーラムにおいて、かわさき基準認証福祉製品の中で、例えば外出支援を促し、健康寿命延伸につながる、デザイン性の高い車椅子について情報発信しました。	3		b		○（仮称）ウェルフェアイノベーション連携推進センターの開設を機に、人材・情報の集積を図り、発信につなげられるよう取り組んでまいります。

行動計画14 新たな「ワークスタイル」構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
<p>超高齢社会において親等の介護による離職が社会的な課題となっている中で、働く上で何らかの障害のある状態にある方に対して、その状態を解消する製品・サービスの活用を通じて、働きやすい職場づくりを広く社会全体に促し、働く意欲を実現できる社会を目指していきます。</p>				B	<p>【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 目標は大幅に遅れている (目標達成が厳しい可能性がある)</p>	II	<p>【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である (現状のまま維持する) II. 概ね効果的な取組構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な取組構成ではない (見直し等の余地が大きい) IV. 取組構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p>○親等の介護による離職を防止するため、介護負担軽減につながる製品・サービスの活用を通じて、働き方改革のモデル事例を示し、介護等をしていても働きやすい職場づくりを社会全体に促していきます。</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の取組結果	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
14-①	高齢者・障害者就労などの働き方のモデル構築に向けた取組実施	これまでの就労支援事業と連動して、かわさき基準認証製品などの活用やICT・農業分野との連携などにより、希望した働き方に近づくことができるワークスタイルの構築に向けて、製品・サービスの活用の取組を進め、その効果を発信します。	<p>○かわさき基準認証福祉製品など福祉製品等の活用による障害者の就労や就労につながる社会参加への取組事例について、ウェルフェアイノベーションフォーラムなどを通じて発信しました。 ○移乗支援のパワーアシストを行う装着型の機器であるかわさき基準認証福祉製品を農業技術支援センターで、野菜の収穫等の業務で試行的に活用しました。 ○掃除機能を付加した車椅子を活用し、車椅子インフルエンサーがAIRBICのフローアを清掃する新たなワークスタイルを情報発信しました。</p>	3	<p>【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>	a	<p>【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止</p>	<p>○かわさき基準認証福祉製品を中心に、福祉分野以外における活用手法を提案し、その効果を広く発信していきます。</p>
14-②	子育てや介護を行う状況にある方の働き方のモデル構築に向けた取組実施	働くことを継続する意欲がありながら、子育てや介護による離職を防止するため、働き方のモデル構築に向けた製品・サービスの情報を集積するとともに、それらの活用の取組を進め、その事例などを発信します。	<p>○福祉製品の活用による業務改善などの取組事例を、ウェルフェアイノベーションフォーラムやKISのパンフレットにおいて情報発信しました。</p>	4		b		<p>○子育てや介護の負担軽減になる製品・サービスを活用した働き方改革のモデルを構築し、その情報を発信していきます。</p>

行動計画15 ウェルフェアイノベーション川崎モデルの海外への展開の推進				進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「行動計画」の今後の方向性及び取組内容
高齢化の進展が世界で最も早い我が国の状況を踏まえ、新たなライフスタイル・ワークスタイルの創出など社会モデルを創造する製品・サービスを、今後高齢化が進展していく諸外国にリーディングケースとして紹介することにより、マーケット拡大に向けた支援を推進していきます。				B	【進捗状況】の選択区分 A. 順調に推移 （目標達成している） B. 一定の進捗がある （目標達成に向けて進捗している） C. 進捗は遅れている （目標達成が遅れる可能性がある） D. 目標は大幅に遅れている （目標達成が厳しい可能性がある）	II	【今後の方向性】の選択区分 I. 効果的な取組構成である （現状のまま維持する） II. 概ね効果的な取組構成である （一部見直し等の余地がある） III. あまり効果的な取組構成ではない （見直し等の余地が大きい） IV. 取組構成に問題がある （抜本的な見直し等が必要である）	○今後、我が国同様、高齢化が進展していく諸外国へのマーケット拡大に向け、海外展開を視野に入れている企業への支援をしていきます。
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和元年度の実績	進捗状況	選択区分の説明	今後の方向性	選択区分の説明	「取組」の今後の方向性及び取組内容
15-①	海外マーケットの分析と中小企業向けへの情報発信	川崎市産業振興財団やジェトロなどの関係機関との連携により、福祉課題を抱える諸外国の状況を分析・情報を整理し、その内容を市内中小企業向けに発信します。	○製品・サービスの創出等を目的としたかわさき基準認証事業者と市内中小企業等とのマッチングセミナーにおいて、川崎市海外ビジネス支援センター（KOBS（川崎市産業振興財団））と連携して、情報発信等を行いました。	3		b		○経済産業省等と連携するなどして、福祉製品を海外マーケットで展開する手法について、企業に対して情報発信してまいります。
15-②	海外マーケット拡大に向けたPR	アジア等のマーケット拡大が見込めるエリアを特定した上で、集中的なPR事業を実施し、その効果を見極めながらさらなる展開を推進していきます。関係機関との連携により、企業の紹介や現地視察等をコーディネートします。	○製品・サービスの創出等を目的としたかわさき基準認証事業者と市内中小企業等とのマッチングセミナーにおいて、川崎市海外ビジネス支援センター（KOBS（川崎市産業振興財団））と連携して、企業の紹介等をコーディネートしました。	3	【進捗状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	b	【取組】の選択区分 a. 現状のまま継続 b. 改善しながら継続 c. 取組規模拡大 d. 取組規模縮小 e. 取組廃止	○経済産業省等と連携するなどして、海外展開に必要な事項について検討し、企業を支援できるよう取り組んでまいります。
15-③	海外マーケットとの情報交流による施策の充実	ヨーロッパやアジア諸国等との情報交流を通じて相互の施策の充実に向けた取組を推進します。	○本市等に来日した台湾の団体と相互の施策の充実に向けた情報交換を行いました。	3		b		○経済産業省等と連携するなどして、海外展開が可能となるよう、その仕組み等について検討し、支援できるよう取り組んでまいります。